平成22年度
厚木市地域包括支援センター担当者研修会

高齢者虐待における養護者支援の視点について

平成22年8月25日（水）
かながわ権利擁護相談センター「あしすと」

1

研修目標

- 虐待ケース対応の第一目的は、「高齢者への虐待の防止」です。
- 高齢者虐待防止法では、養護者（虐待する家族・介護者）に対する支援を行うことを定めています。
- 地域包括支援センターと関係機関とのネットワークによる、本人、養護者への支援役割を考えてみましょう。

2

本日の流れ（予定）

- ■ **2:10～ （25分）**
  - 個人ワーク①本人の支援課題
  - 個人ワーク②養護者の支援課題
- ■ **2:35～ （40分）**
  - ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ③支援課題の優先順位の整理
  - ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ④役割分担の整理
- ■ **3:15～ （40分）**
  - 研修会のまとめ
- ■ **4:55** 終了

3

個人ワーク①　14:10～14:25　（15分間）

事例資料から読みとれる、
高齢者A、Bの支援課題を考えてみましょう。

個人ワーク①

A、Bの支援課題を付せんに書き出す。

（付せんの使い方のルール）

- 一枚の付せんに、一つの課題を書く。
- AとBの支援課題を分けて付せんに書く。

4

個人ワーク①　14:10～14:25　（15分間）

事例資料から読みとれる、
高齢者A、Bの支援課題を考えてみましょう。

＜支援課題を考える視点＞
例えば・・・
◆解消されるべき、「虐待」の状況とは？
◆A，Bは虐待の事実をどのように捉えているか？
◆A，Bはどのように生活したいと望んでいるのか？
◆A、Bの心身の状況、生活状況はどうか？
◆必要な医療や福祉サービスとつながっているか？
→情報収集、事実確認は必要十分に行われているだろうか？

5

個人ワーク②　14:25～14:35　（10分間）

事例資料から読みとれる、
養護者C、Dの支援課題を考えてみましょう。

個人ワーク②

C、Dの支援課題を付せんに書き出す。

（付せんの使い方のルール）
- 一枚の付せんに、一つの課題を書く。
- CとDの支援課題を分けて付せんに書く。

6

個人ワーク②　14:25～14:35　（10分間）

事例資料から読みとれる、
養護者C、Dの支援課題を考えてみましょう。

＜支援課題を考える視点＞
例えば・・・
◆C，Dは虐待の事実をどのように捉えているか？
◆C，Dはどのように生活したいと望んでいるのか？
◆C，Dの介護負担（介護の知識、経済的負担、ストレス等）はどのような状況か？
◆C，Dの心身状況、生活状況はどうか？
→情報収集、事実確認は必要十分に行われているだろうか？

7

グループワーク①　14:35～14:55（20分間）

支援課題の優先順位を考えてみましょう。

グループワーク①
情報整理シートに付せんを整理する。

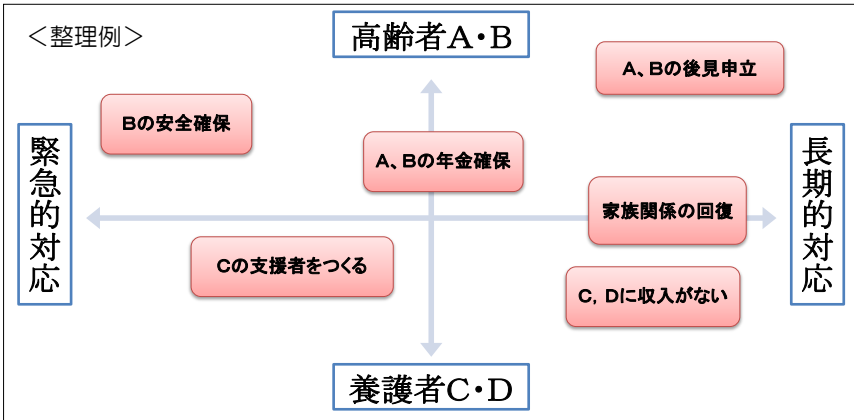
（ワークの流れ）
- 付せんに書いた内容を全員が発表する。
- 似通った内容の付せんはまとめて貼る。
- 優先順位を協議してシートに貼りながら整理する。

8

グループワーク①　14:35～14:55　（20分間）

支援課題の優先順位を考えてみましょう。

＜整理例＞



参考：虐待対応ソーシャルワークモデルに基づく高齢者虐待対応テキスト（日本社会福祉士会）

9

グループワーク②　14:55～15:15　（20分間）

役割分担を考えてみましょう。

グループワーク②

<u>情報整理シートに支援者の役割分担を書き込む。</u>

（ワークの流れ）

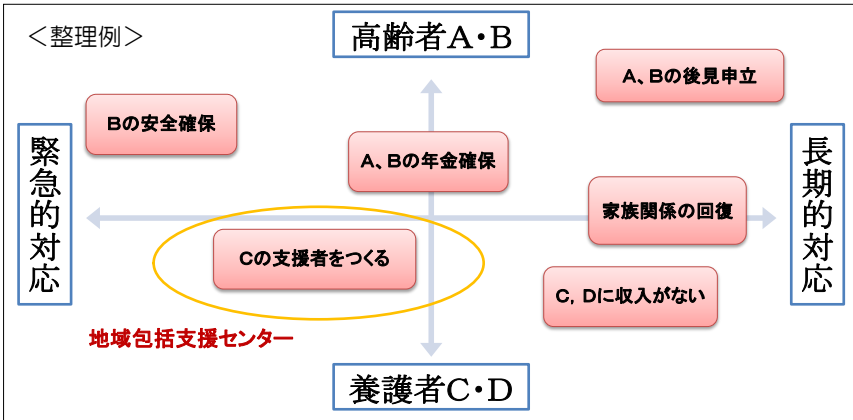
- 支援課題に「どのように」取り組むか？
- 優先して取り組む課題？並行して取り組む課題？
- 支援課題に「だれ（関係機関or担当者）」が対応するか？

10

グループワーク①　14:55～15:15　（20分間）

支援課題の優先順位を考えてみましょう。

＜整理例＞



参考：虐待対応ソーシャルワークモデルに基づく高齢者虐待対応テキスト（日本社会福祉士会）

11

研修会のまとめ

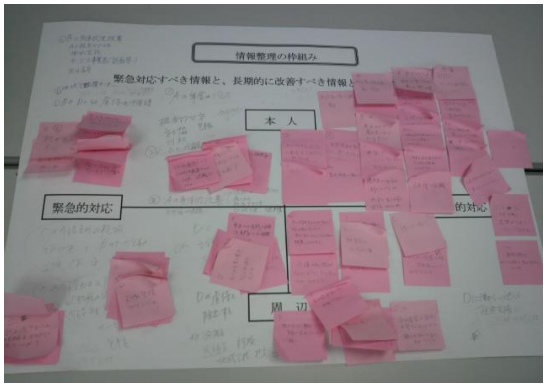
■ 高齢者虐待対応ケース会議記録・計画書の紹介

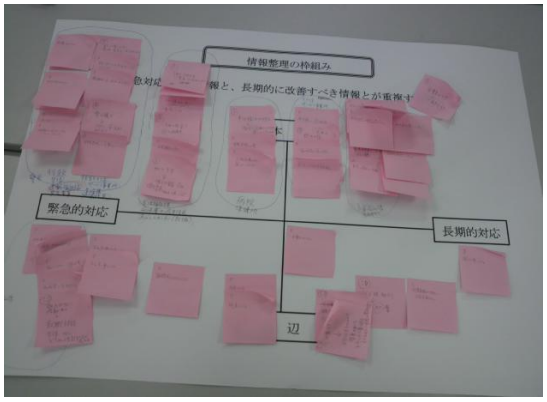
■ まとめにかえて

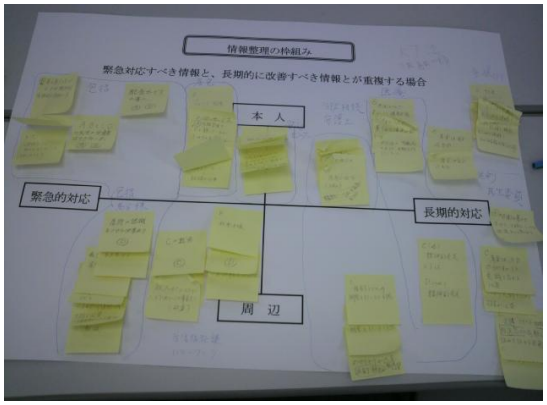
- 厚木市高齢福祉課から
- 横浜市六浦地域ケアプラザ地域包括支援センター
  中村匡宏主任CMから
- あしすとアドバイザリースタッフ　梅田滋社会福祉士から

12

●グループワークの実施状況







＜※本事例は研修会のために事務局が作成したものです。＞

D票(表)

アセスメント要約票

対応計画 1 回目用

アセスメント要約日：年 月 日　　要約担当者：

高齢者本人氏名:A	性別・年齢：■男 □女 90代	居所：■自宅 □入所・院	
養護者氏名:C	性別・年齢：□男 ■女 50代	高齢者本人との関係:次女	同別居の状況：■同居 □別居

高齢者本人の希望

居所の希望:□在宅 □入所 ■不明 ／ 分離希望:□有 □無 □不明

施設に入所することを希望するかとの問い掛けにうなづく。

意思疎通：□可能 □特定条件のもとであれば可能（ ） ■困難 □不明
話の内容：□一貫している □変化する
生活意欲：□意欲や気力が低下しているおそれ（無気力、無反応、おびえ、話をためらう、人目を避ける、等）

Ⅰ．高齢者本人の情報　面接担当者氏名：

虐待解消に向けた対応課題

【健康状態等】

疾病・傷病　：**前立腺肥大**　　既往歴：**00年11月脳梗塞**

受診状況：**2回／月　往診**　　服薬状況(種類)：**有（内容は不明）**

受診状況：　　服薬状況(種類)：

診断の必要性：□内科 □精神科 □外科 □整形外科 □その他（ ）
具体的症状等⇒

□課題

要介護認定　：□非該当 □要支援（ ） ■要介護（ 5 ） □申請中（申請日： 年 月 日） □未申請

障害　：□身体障害 □精神障害（□あり □疑い） □知的障害（□あり □疑い）

精神状態　：□認知症（□診断あり □疑い） □うつ病（□診断あり □疑い） □その他（ ）

【危機への対処】

危機対処場面において：□自ら助けを求めることができる ■助けを求めることが困難

□課題

避難先・退避先　：□助けを求める場所がある（ ） ■ない

【成年後見制度の利用】

成年後見人等：□あり（後見人等： ） □申立中（申立人： ） □申立予定あり ■申立予定なし

□課題

【各種制度利用】

■介護保険 □自立支援法 □その他（ ）

□課題

【経済情報】

収入額　月 35 万円（内訳： ）　預貯金等 **不明** 万円　借金 **不明** 万円

１ヶ月に本人が使える金額 ＿＿＿万円

具体的な状況（生活費や借金等）：**Bの借金が300万円～400万円あり、返済のやりとりをCが代わりに行なっている。（C、Dの主張）**

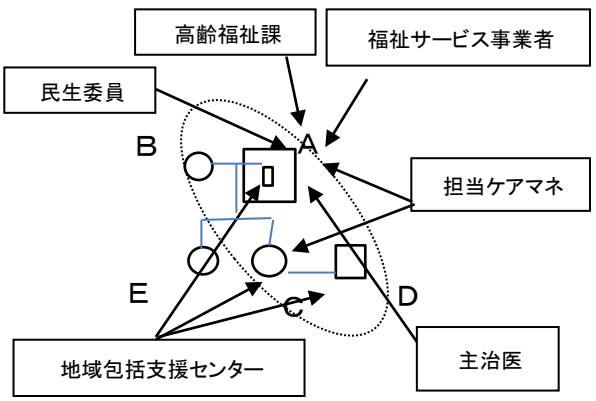
□課題

□生活保護受給 □介護保険料滞納 □国民健康保険料滞納 □その他（ ）

金銭管理　：□自立 □一部介助（判断可） ■全介助（**判断不可**） □不明

金銭管理者：□本人 □成年後見人等 □日常生活自立支援事業利用 ■その他（ 次女 ）

【エコマップ】



【生活状況】

食　事（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
調　理（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
移　動（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
買　物（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
掃除洗濯（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
入　浴（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
服薬管理（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
預貯金年金の管理（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
医療機関の受診　（□一人で可 □一部介助 ■全介助）

■課題

【性格上の傾向、こだわり、対人関係等】
寝たきり状態で難聴のために意思疎通が難しい。

【その他特記事項】
BとC、Dが言い争っていると、止めるようにととめようとする動きをする。

□課題

社団法人日本社会福祉士会 作成（出典：東京都老人総合研究所作成様式を参考に作成）

＜※本事例は研修会のために事務局が作成したものです。＞

D票(表)

アセスメント要約票

対応計画 1 回目用

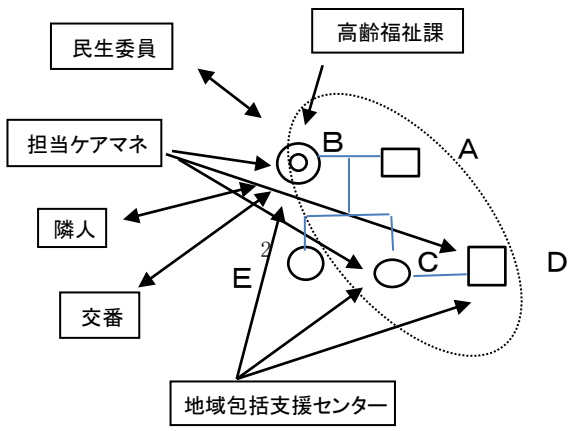
アセスメント要約日：年 月 日　　要約担当者：厚〇 花子

高齢者本人氏名:B	性別・年齢：□男 ■女 80 代	居所：■自宅 □入所・院	
養護者氏名:C	性別・年齢：□男 ■女 50 代	高齢者本人との関係:次女	同別居の状況：■同居 □別居

高齢者本人の希望	居所の希望:□在宅 ■入所 □不明 ／ 分離希望:□有 □無 □不明
	夫と二人で老人ホームに入りたい。
	意思疎通：■可能 □特定条件のもとであれば可能（ ） □困難 □不明 話の内容：□一貫している ■変化する 生活意欲：■意欲や気力が低下しているおそれ（無気力、無反応、おびえ、話をためらう、人目を避ける、等）

Ⅰ．高齢者本人の情報　面接担当者氏名:厚〇 花子	虐待解消に向けた対応課題
【健康状態等】 疾病・傷病　：**甲状腺機能低下**　　既往歴：**01年1月大腿骨骨折** 受診状況：**4か月前に介護認定の更新のため受診したのみ**　服薬状況(種類)　： 受診状況：　服薬状況(種類)　： 要介護認定　：□非該当 □要支援（ ） ■要介護（ 1 ） □申請中（申請日：　年　月　日） □未申請 障害　：□身体障害 □精神障害（□あり □疑い） □知的障害（□あり □疑い） 精神状態　：■認知症（■診断あり □疑い） □うつ病（□診断あり □疑い） □その他（ ）	■課題
【危機への対処】 危機対処場面において：■自ら助けを求めることができる □助けを求めることが困難 避難先・退避先　：■助けを求める場所がある（**隣家、交番**　） □ない	■課題
【成年後見制度の利用】 成年後見人等：□あり（後見人等：　） □申立中（申立人：　） □申立予定あり ■申立予定なし	□課題
【各種制度利用】 □介護保険 □自立支援法 □その他（ ）	□課題
【経済情報】 収入額　月 5 万円（内訳：　） 預貯金等 **不明** 万円　借金 **不明** 万円 １ヶ月に本人が使える金額 0 万円 具体的な状況（生活費や借金等）：**Bの借金が300万円～400万円あり、返済のやりとりをCが代わりに行なっている。（C、Dの主張）** □生活保護受給 □介護保険料滞納 □国民健康保険料滞納 □その他（ ） 金銭管理　：□自立 ■一部介助（**判断可**） □全介助（判断不可） □不明 金銭管理者：□本人 □成年後見人等 □日常生活自立支援事業利用 ■その他（ 次女 ）	■課題

【エコマップ】



【生活状況】

食　事（■一人で可 □一部介助 □全介助）
調　理（□一人で可 ■一部介助 □全介助）
移　動（■一人で可 □一部介助 □全介助）
買　物（□一人で可 ■一部介助 □全介助）
掃除洗濯（□一人で可 ■一部介助 視覚全介助）
入　浴（□一人で可 ■一部介助 □全介助）
服薬管理（□一人で可 ■一部介助 □全介助）
預貯金年金の管理（□一人で可 □一部介助 ■全介助）
医療機関の受診　（□一人で可 ■一部介助 □全介助）

■課題

【性格上の傾向、こだわり、対人関係等】

だまっておらず、言いたいことは言う。

【その他特記事項】

髪の毛は伸び、入浴もできていないため、臭いがしている。
涙ぐむ等、精神的にも追い詰められている。食事もご飯は食べているようだが、栄養状態の心配がある。

■課題

＜※本事例は研修会のために事務局が作成したものです。＞

Ｄ票（裏）

Ⅱ．養護者の情報　面接担当者氏名：	虐待解消に向けた対応課題
【養護者の希望】 「両親と一緒に生活したい。」「収入がないので両親の年金で生活していきたい。」	■課題
【健康状態等】 疾病・傷病：**腎臓病**　既往歴： 受診状況：**有**　服薬状況（種類）：**不明** 受診状況：　服薬状況（種類）： 診断の必要性：　□内科　□精神科　□外科　□整形外科　□その他（　　） 具体的症状等⇒ 性格的な偏り： 障害　：　□身体障害　□精神障害（□あり　□疑い）　□知的障害（□あり　□疑い）	■課題
【介護負担】 被虐待高齢者に対する介護意欲：　□あり　■なし　□不明　介護技術・知識：　□高い　■低い　□不明 １日の介護時間：□ほぼ１日中　□必要時のみ　□不明　介護の代替者　：　□あり　■なし　□不明 介護期間（いつから始まったか、負担が大きくなった時期やきっかけ、最近の生活行動の変化など）※期間と負担原因を明確に 00年11月頃、Ａが脳梗塞をおこし、徐々に寝たきり状態となった。01年1月には介護者のＢが大腿骨骨折で2か月間入院。同時期Ａも褥創の治療のために入院している。そのころからＣの介護負担は大きくなった。 平均睡眠時間：およそ＿＿＿時間	■課題
【就労状況】 就労状況：□就労（就労曜日＿＿～＿＿　就労時間＿＿時～＿＿時）、雇用形態（□正規、□非正規）　■非就労　□福祉的就労	□課題
【経済状況】 収入額　月　0　万円（内訳：　）　預貯金等＿＿＿万円　借金＿＿＿万円 ■被虐待高齢者の年金に生活費を依存　■借金トラブルがある（Ａの借金？）　□ギャンブルによるトラブルがある □生活保護受給　□介護保険料滞納　□国民健康保険料滞納　□その他（　）	■課題
【近隣との関係】 □良好（　）　□挨拶程度　□悪い　■関わりなし　□不明	□課題
Ⅲ．家族関係（家族歴、家族の抱える問題、家族の中の意思決定者、問題が起こったときの対処方法、地域や近隣との関係、等）	
※高齢者虐待対応ケース会議記録・計画書(1) E票 の「支援機関・関連機関等連携マップ」で集約する ・ＣとＤ（次女の夫）と同居。健康状態等からＡとＢの二人のみでは、自宅で生活することはできない。 ・ＣＤ共に働いておらず、ＡとＢの年金で生活している。 ・Ｂに借金があり、その返済について業者とのやりとりをＤがやっていると、ＣとＤは主張している。 ・ＢとＣ、Ｄは口論が絶えず、ＤはＢへの言葉の暴力や髪の毛を引っ張る、殴る振りをする、物に当たるなどの行為が頻繁に行なわれている。口論や暴力があるとき、Ａは止めに入るような動きをする。Ｂは交番や近所に助けを求めている。 ・Ｃ，ＤからＡへの暴力や暴言はない。 ・Ａの内服管理はＣが行なっているが十分でない。 ・Ｅ（長女）がいるが、Ｃ（次女）に両親を看てもらっているという負い目があり、強く言うことができない。 ・民生委員は高齢福祉課や包括に状況を報告し相談をしている。	■課題
Ⅳ．その他（関係者、関係機関の関わり等）	
※高齢者虐待対応ケース会議記録・計画書(1) E票 の「支援機関・関連機関等連携マップ」で集約する ・サービス事業者からＢの虐待について高齢福祉課へ報告がある。また、担当ケアマネや包括も状況を確認して高齢福祉課へ相談をしている。 ・Ｂは、介護サービスは利用していない。担当ケアマネは時々訪問をし状況を確認している。 ・包括と民生委員は情報を共有している。	□課題
〔全体のまとめ〕：Ⅰ～Ⅳで抽出された課題の結果を踏まえて整理する。 ＜課題整理について、グループワークを実施＞	

E票（裏）

高齢者虐待対応ケース会議記録・計画書（２）

本資料は研修会用に事務局が作成したものです

対象	優先順位	課題	目標	具体的な役割分担		
				何を・どのように	支援機関・担当者等	実施日時・期間／評価日
高齢者（Ａ）	○	服薬管理が十分に行われていないなど、必要な介護が受けられていない。	・必要な福祉サービスにつながる。	①現在の福祉サービスの利用、財産管理の状況についてＡの意思を確認する。 ②アセスメントに基づき、Ｃ，Ｄに福祉サービスの利用を提案する。 ③後見申立の必要性について整理・分析する	①②ケアマネジャー ③地域包括支援センター	１ヶ月
		Ｂの借金返済を理由にＣ，Ｄが生活を切りつめているが、Ａに返済義務があるかどうか不明。	・Ｇの借金返済義務があるかどうか確認した上で、適切な借金整理（返済）を行う。	①借金の事実確認についてＡの意思を確認する。 ②借金状況について客観的情報（契約書等）から事実確認したい旨をＣ，Ｄに伝える。 ③収集した情報をもとに、ＣＤの債務整理の方法がＡにとって適当かどうか確認する。 ④後見申立の必要性について整理・分析する	①ケアマネジャー ②③④地域包括支援センター	３ヶ月
	○	意思疎通が難しい。	本人の健康状態（判断能力を含む）の客観的な状況を確認する。	①Ｂが虐待を受けている現状について、Ａの事実認識を確認する。 ②Ｃ，Ｄに説明し、医師の診断につなぐ。 ③施設入所の必要性について整理・分析する。	①③ケアマネージャー ②地域包括支援センター	１ヶ月
高齢者（Ｂ）	◎	身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトを受けている。	身の安全の確保	①虐待を受けている現状について、Ｂの事実認識を確認する。 ②緊急一時入所の必要性について整理・分析する。 ③通報窓口を一本化して情報の整理・分析を行い、危機介入に備える。 ④緊急一時入所の調整を行う。	①ケアマネージャー ②③地域包括支援センター ④高齢福祉課	①１日 ②２日 ③２日 ④１週間
	○	Ｃ、Ｄの財産管理により、必要な食事や福祉サービスが受けられない。（経済的虐待）	必要な物事に財産を使うことができる	①虐待を受けている現状について、Ｂの事実認識を確認する。 ②Ｃ、Ｄに説明し、医師の診断（判断能力含む）につなぐ ③成年後見制度の説明し、協力を依頼できる親族を確認する。	①ケアマネージャー ②地域包括支援センター ③高齢福祉課	１ヶ月

		Ｃ、Ｄの虐待を挑発する言動がある。	虐待の発生原因について分析する。	①Ｃ，Ｄへの言動の背景についてＢに確認する。 ②Ｂの立場から見た家族関係について整理・分析する。	ケアマネージャー	３ヶ月
養護者（Ｃ）	○	Ｂへの語調が厳しく、激しい口論が続いている。	口論の発生原因について分析する。	①Ｂへの言動の背景についてＣに確認する。 ②Ｃの立場から見た家族関係について整理・分析する。	地域包括支援センター（Ｃ担当者）	１ヶ月
		Ａ・Ｂの収入に依存している。	生活の安定。経済的自立。	①Ｃの経済的自立への意思について確認する。 ②Ｃの就労支援、収入確保に向けた社会資源について調査・調整する。	①③地域包括支援センター（Ｃ担当者） ②高齢福祉課	３ヶ月
	○	Ａ・Ｂへの介護が不十分であることへの事実認識が不明（ネグレクト）	Ａ，Ｂに必要な介護を理解する。	①Ａ，Ｂへの介護状況について、Ｃの事実認識を確認する ②Ｃの生活や身体、生活状況、介護を困難にしている要因について把握する。 ③Ａ，Ｂに適切な介護方法を分析する。	①②地域包括支援センター（Ｃ担当者） ③ケアマネージャー	１ヶ月
養護者（Ｄ）	○	Ｂへの身体的、心理的虐待がある。	虐待行為の解消	①Ｂへの虐待状況について、Ｄの事実認識を確認する。 ②Ｄの生活や身体、生活状況、介護を困難にしている要因について把握する。 ③Ｄの立場から見た家族関係について整理・分析する。	地域包括支援センター（Ｄ担当者）	１ヶ月
		Ａ・Ｂの収入に依存している。	生活の安定。経済的自立。	①経済的自立への意思について確認する。 ②就労支援、収入確保に向けた社会資源について調査・調整する。 ③経済的自立に向けた声かけを行う。	①③地域包括支援センター（Ｄ担当者） ②高齢福祉課	３ヶ月

対応が困難な課題／今後検討しなければならない事項等（アセスメント要約票D票の〔全体のまとめ〕から記載）	計画評価予定日　　年　　月　　日【１週間後】

・ＢはＡと同一施設に入所を希望している。しかしＢの要介護認定、施設の空き状況から、Ｂ意思に沿った支援は難航する可能性が高い。Ａと別の施設入所を提案した場合、Ｂの拒否にあう可能性があり、説明方法に留意する必要がある。
・判断能力の診断結果次第では後見申立が必要なケースであるが、親族調査や市長申立、後見人候補者の検討（高齢福祉課）、申立準備にあたっての支援（地域包括支援センター）の検討が必要。
・Ｃ，Ｄは無職だが働く能力はあると思われ、生保受給につながりづらいケースである。しかしＣ，Ｄの収入が確保されない限り、Ａ，Ｂの世帯分離を拒む可能性が高い。

※記入欄が足りない場合は、様式を追加して記入